

◎まさしく崖っぷち 不退転の勝負の始まりの年に

コロナウイルスの関係で特別委員会は中止となりましたが、先日 19 日に 2 月定例県議会が閉会しました。地域経済の下支えと県民の安全・安心、そして特に本県において人口の県外流出（社会減）に歯止めがかからぬなかで、若者定着や力強い産業の育成のための施策に重点化した取り組みが予算化された**総額 7164 億の新年度予算が可決**されました。

今回の定例県議会の本会議議場において私は「**予算総括質疑**」と「**IR 観光特別委員会提出の意見書の賛成討論**」「**R 2 年度一般会計予算の賛成討論**」で登壇しました。

予算総括質疑では、以下の項目について質疑しました。

- 1、第 2 期まち・ひと・しごと創生総合戦略
- 2、行財政改革について
- 3、施策の効果・必要性の検証（長崎駅舎整備、水道の広域化、健康ながさき 21 等）

行革については最終年度にあたる**令和 2 年度の収支改善実績見込 516 億（計画 383 億）**と大幅増で目標達成できますが、個々にみると例えば「**聖域なき改革の断行**」をやっているかという視点において「**住宅供給公社**」「**交通局（県営バス）**」の公的な役割は終えたのではないかと、職員数も減らしてきているが「**専門職の数**」において**県民ニーズに答えきれていないのではない**かということ、健康ながさき 21 では 10 年スパンの計画で中間実績が悪く残り 3 年しかないのに目標達成のための取組が感じられないこと等を質疑しました。特に**健康寿命日本一を目指す本県においてがんの死亡率が高い**（下表）ことは、検診率が一向によくないことを含め抜本的な取り組みの見直し、強化が必要です。質疑が記事に。（2020. 3. 7 長崎新聞）

【がん部位別年齢調整死亡率（2018 年 単位：％）】

	全がん	胃	肺	大腸	子宮	乳房
全国	71.6	7.7	12.8	10.0	4.9	10.7
長崎県	78.7	8.0	14.4	11.5	6.0	12.5
順位	4	17	5	5	5	6

令和 2 年度 所属委員会

- 常任「**総務委員会**」（県警・文化観光国際部・企画振興部・危機管理監・総務部）
- 特別「**観光振興・交通対策特別委員会**」

新長崎駅に南口改札を

県、JR九州に働き掛け

歩行デッキも

県は 6 日の県議会予算決算委員会総括質疑で、JR 長崎駅の新しい駅舎について、高架ホームに「南口改札」を設け、駅舎と離島航路が発着する元船地区を結び「歩行者デッキ」の実現を目指し、JR九州と協議を続けていく考えを改めて示した。

前田哲也議員（自民）の質問に答えた。

JR 長崎線連続立体交差事業に伴い、3 月 28 日に高架ホームとして供用が始まる新長崎駅の改札は 1 階に 1 カ所の予定。だが、南口改札と歩行者デッキは 2016 年 3 月に県と市が策定した「長崎駅舎・駅前広場等デザイン基本計画」に盛り込んである。現状では、実現の見通しは立っていないが、県などは南口改札と歩行者デッキの設置を前提に、ホームや屋根を伸ばして工事している。

県によると、JR九州は当初、県などが費用を全額負担しても南口改札の設置には応じられないとの見解だった。しかし、県の要望を受け昨年 6 月、「新幹線開業後の人の流れを見て改めて協議する」と回答。さらに県が周辺施設をデッキで結ぶよう求めたところ、新駅に隣接し、23 年春に一部開業予定の新駅ビル 2 階部分に、高架と同じ高さの歩行者デッキが盛り込まれる計画になったという。

岩見洋一土木部長は「今後実現に向けて（JR九州など）関係機関との協議を進めたい」と述べた。

（田中祐作）

